

競技注意事項

第72回北海道学生陸上競技対校選手権大会 札幌厚別公園競技場
令和2年8月21日(金)・22日(土)・23日(日)

1. 競技規則について

本大会は、2020年度日本陸上競技連盟規則、ならびに本大会申し合わせ事項により実施する。

不正スタートは1回目にしたものを失格とする。

※混成競技におけるトラック種目では2回目のフライングで失格となる。

2. 札幌厚別公園競技場使用上の注意

- 1) 当該種目競技者以外は、競技エリアへの立ち入りを禁止する。
- 2) 競技開始後はフィールド内での練習を禁止する。
- 3) 補助競技場は使用できる時間帯が限られている。補助競技場の使用可能時間帯は以下の通りである。

8月21日(金)	16:00	まで
8月22日(土)	×	
8月23日(日)	×	

補助競技場の使用規則については、後に記載の通りとする。
- 4) 本競技場を使用しての練習は競技開始の15分前までとする。
- 5) 投擲種目の練習は係の指示に従うこと。また、空いた穴は修復すること。

3. ナンバーカードについて

- 1) 学連に登録した競技者は、各自の学連ナンバーカードを使用する。まだナンバーカードを受け取っていない競技者は、受付まで団体ごとに学連ナンバーカードを取りに来ること。
- 2) 腰ナンバーカードについては、各校が用意したものを使用する。4×100mRについては4走者のみ右側につける。4×400mRについては2,3走が左右につけ、4走は右側につける。個人トラック種目出場者については右側にのみつける。
- 3) また、3000m以上の競技の出場者は通しナンバーカードをつける必要があるため、現地集合する前までに競技者係まで取りに行く(レース終了後、決勝点付近で速やかに回収する)

4. 補助競技場の使用について

- 1) 補助競技場への出入口は100mスタート後方部分のみとし、その他の出入口は使用しない。
- 2) 安全確保のため、棒高跳、走高跳、走幅跳、砲丸投のピットへの立ち入りは禁止する。フィールド種目の練習に関しては、ハンマーの使用は禁止し、それ以外については補助競技場監察係の指示に従い、安全に留意して行うこと。
- 3) リレーの練習などで使用したマークは、各団体が責任をもって処分すること。
- 4) 補助競技場を除く競技場周辺において投擲物を用いた練習行為を禁止する。
- 5) 補助競技場の使用時間は大会の競技終了時間までとする。
- 6) 秩序のある練習をし、安全に留意して使用すること。
- 7) 補助競技場の芝生以外でのテントの設営を禁止する。

5. 点呼について

- 1) 競技者は指定された時間までに1次点呼（○付け）を行い、その後、各競技開始場所に直接集合する。
- 2) 1次点呼（○付け）・現地集合時刻は以下の通りとする。

	1次点呼（○付け）	現地集合時刻
トラック競技	競技開始 30 分前	競技開始 20 分前
フィールド競技（棒高跳を除く）	競技開始 40 分前	競技開始 30 分前
棒高跳	競技開始 70 分前	競技開始 60 分前

- 3) 1次点呼（○付け）を行わない、または指定された時間に競技開始場所にいなかった競技者は当該競技種目を棄権したものとみなし処理する。
- 4) 代理人による招集最終確認は原則として認めないが、競技者が他の種目に出場中の場合のみ代理人による点呼を認める。その場合はその旨を競技者係にあらかじめ伝えておくこと。
- 5) 1次点呼（○付け）場所は、競技場第1ゲート付近（100m スタート付近）に設ける。
- 6) 1次点呼（○付け）終了時刻、及び現地集合時刻はプログラム記載の競技日程の通りとする。
- 7) リレー種目は、オーダー用紙（本部受付に用意）に走順・ナンバー・名前を記入し、1次点呼（○付け）終了時刻の1時間前までに競技者係に提出すること。
- 8) 混成競技の招集は、その日の最初の種目のみ招集を行い、以後の招集は行わない。競技者は次の種目の実施場所に移動し、混成競技者係の指示を受ける。

6. 棄権について

- 1) 事前に棄権することがわかっている場合は、指定の期日までに指定の方式で申し出ること。
- 2) 大会当日、やむなく棄権する場合は、棄権届け（2枚）に必要事項を記入し、競技者係と本部へ提出すること。なお、棄権届は大会受付（メインスタンド下役員審判控室）にあるので、取りに来ること。

7. 競技の抽選・番組編成について

- 1) トラック競技予選のレーン順、フィールド競技の試技順はプログラム記載の順による。
- 2) 準決勝以降の組み合わせ、およびレーン順は主催者が抽選する。
- 3) 事前棄権者が多数の場合、予選ラウンドが行われない競技については、選手の最高記録を考慮して決勝ラウンドの番組編成を行う。

8. 用器具について

競技に使用する用器具は、すべて主催者側が用意したものを使わなければならない。ただし、投擲物は個人所有のものを使用することができる（1次点呼（○付け）終了時刻1時間前に用器具庫で各々検査を受けて許可されたものに限る）。この投擲物は、他の競技者も使用できる。（規則第 187 条）

9. 滑り止め（炭酸マグネシウム）について

主催者側では用意しない。必要に応じて各個人が個別に持参すること。

10. トラック競技について

- 1) すべて写真判定とするが、万一、機器が故障し、復旧しない場合は、手動計時に切り替えて継続する。
- 2) 次の種目は、競技進行に遅れを生じさせる恐れがある場合のみ、次の条件で打ち切ることがある。制限時間は以下の通りとする。また、このタイムは変更の場合がある。

男子5000m	18分00秒	女子5000m	22分00秒
男子10000m	40分00秒	女子10000m	45分00秒
男子10000mW	65分00秒	女子10000mW	70分00秒
男子3000mSC	15分00秒	女子3000mSC	18分00秒

11. フィールド競技について

- 1) フィールド競技における競技場内での練習は原則として2回とし、すべて競技役員の指示に従う。
- 2) フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従うこと。
- 3) 跳躍競技でのバーの上げ方は下記の通りとするが、状況により変更することもあり得る。

男子走高跳	練習 1m70	試技 1m75 より 5cm 1m95 より 3cm
女子走高跳	練習 1m40	試技 1m50 より 5cm 1m70 より 3cm
男子棒高跳	練習 3m00	試技 3m00 より 10cm
女子棒高跳	練習 2m00	試技 2m10 より 10cm
男子混成走高跳	練習 1m45	試技 1m50 より 5cm 1m80 より 3cm
男子混成棒高跳	練習 2m80	試技 2m80 より 10cm 4m00 より 10cm
女子混成走高跳	練習 1m20	試技 1m25 より 5cm 1m45 より 3cm

- 4) 走幅跳は、2つのピットにわかれて行う場合がある。
- 5) 走幅跳では、男子 5m00、女子 4m00 に満たない記録は計測しない。三段跳では、男子は11m板と13m板を、女子は9m板を使用する。なお、この条件については状況により変更する場合もある。
- 6) 選手の競技力をみて、審判の判断で変更する場合は必ず総務に相談の上、全体の競技進行を考慮して変更することとする。

12. 表彰について

- 1) 各種目第3位までの入賞者を表彰するので、該当者は競技終了後、アナウンスが掛かり次第、表彰席前に集合すること。また、8位までの入賞者に賞状を授与するので、競技終了後、表彰係より受け取ること。
- 2) 対抗得点については、1位－8点、2位－7点、3位－6点、4位－5点、5位－4点、6位－3点、7位－2点、8位－1点、とする。対校得点が同点の場合は優勝種目数の多い方を上位とする。

13. 抗議について

- 1) 競技進行中に起きた競技者の行為、または競技成績に関する抗議は、その競技者あるいはチームの代表者により結果が正式発表(アナウンス)されてから30分以内(同一日に次のラウンドが行われる競技では、その結果が正式に発表されてから15分以内)に、総務員を通して口頭で審判長になされなければならない。時間以内に申し出がなければ、何ら問題はなかったものとみなされる。
- 2) 抗議に対して審判長は速やかに裁定する。その裁定を不服とし、さらに抗議する場合は抗議申立書と預託金 10,000 円を添えて上訴する。この預託金は抗議が受け入れられなかった場合は没収される。
- 3) この間の事務処理は総務員が行い、抗議者は大会本部で待機する。

14. その他

- 1) 閉会式は特別な理由がない限り、必ず出席すること。ただし、競技場中央に集合する者は全参加校代表者1名と表彰を受ける者(事前に連絡する)のみとする。その際に部旗がある大学は必ず持参すること。また、他の者は各校の待機場所にて観覧すること。
- 2) 競技者の衣類の管理は、すべて各自で行うこと。※役員・補助員による運搬は行わない。
- 3) 盗難・紛失について、主催者で受領した物品等については一時保管するが、その他のものについては一切責任を負わない。なお、主催者で受領した物品等は大会本部で管理する。
- 4) 応急処置について 競技中の事故等による身体の故障の場合、医務員が応急処置を行うが、その後の治療等は本人負担とする(競技者保険の適用)。また、事故の結果について本連盟は一切責任を負わない。医務室は、大会本部に設置してある。
- 5) 大会期間中に出了ゴミは、絶対に各自で持ち帰ること。
- 6) 競技者(選手)がカメラで撮影されることによって嫌悪や不安に感じられる場所からの撮影は禁止する。また、撮影している場所によっては不審と判断された場合、競技役員が注意・指導、撮影内容の確認をする場合がある。
- 7) 不審者等がある場合、大会本部まで問い合わせること。
- 8) その他、不明な点は大会本部に問い合わせること。